資料３

「未来の養父市を語るタウンミーティング」意見・提案

①Ｕターン・Ｉターンなど人材の誘致・受け入れについて

【教育】

▼ふるさとを語れる、ふるさとに愛着を持つ教育が大切。小さい頃から地域を知る・ふれあう機会をもつべき。（養父ほか多数）

▼子どもたちが将来帰ってくる意識を持たせるためには、地域に誇りを持たせる「ふるさと教育」に力を入れるべきである。（伊佐ほか多数）

▼今の教育は都会に出て行くための片道切符の教育である。一旦は都会に出ても帰ってくる子どもがふるさとを想い帰ってくる往復切符の教育にすることが必要である。（高柳）

▼大学に行かすには莫大な費用がかかる。卒業後は養父市に帰る条件で奨学金制度の創設を考えられないか。養父市に帰ってくれば、返済は半額免除などとすれば親も安心できる。（浅野・建屋）

▼大学を誘致してはどうか。（八鹿・熊次・宿南・広谷）

▼但馬農高の生徒の活躍はすばらしく、一生懸命である。卒業後も地元に残り、農林業や畜産業に関わってほしい。（広谷）

【住宅施策・奨励制度】

▼Ｕ・Ｉターン者がほ場整備の土地に家を建てられるよう、農地の転用が簡単にできないか。（口大屋）

▼新築助成金はないのか。（関宮）

▼以前、若者定住助成金を受けたが、申請まで３年など時間が経てば忘れてしまう。申請をスムーズにしてほしい。（関宮）

▼Ｕ・Ｉターン者に農地も含め、空き家を格安で売却してはどうか。（大谷）

▼Ｕ・Ｉターンする若者や子育て世代が養父市に住むとよい補助制度があることをわかりやすく PR するべきである。（建屋）

【仕掛け】

▼Ｕ・Ｉターン施策でＩターンはコストがかかり効率が悪い。Ｕターン施策が効率良い。Ｕターン者をそのまま帰す作戦が必要。「帰ってこいコール」など声かけ運動を展開してはどうか。（大屋）

▼Ｕ・Ｉターン者へ養父市のいいところ・悪いところをなりふり構わずアピールする作戦をとってはどうか。（大屋）

▼Ｕ・Ｉターン者から養父市に住むようになった意見を聞けば、施策の考えが変わると思う。（八鹿）

▼地域局単位で出身者を呼び戻す行動を競争させてはどうか。合併後、地域局のアピールがぼやけている。（西谷）

▼都会から田舎を目指す若者は増えている。シティプロモーション次第で良い結果に繋がる。「特区」も追い風であり、魅力あるキャッチフレーズに惹かれて移住する若い世代はいる。（高柳）

▼未就学の子どもがいる世帯は移住しやすい。小学校に入るまでの世帯がターゲットである。（高柳）

▼最近、孫ターンが目立っている。小さい頃に田舎で経験した楽しい思い出は忘れない。祖父母が孫に養父市の良さを伝え続けることが大切である。金はかからない。（高柳）

▼全国的には親と暮らせない子、親のいない子がいる。里親制度を進め、受け入れてはどうか。（出合）

▼大学で都会に出た子どもが帰ってくるようにするためには、小さい頃から洗脳するくらい帰ってこいと言い聞かせておかないといけない。（浅野）

▼親が子どもに小さい頃から「最終的には戻ってこい」と口に出して言って聞かすことが必要である。（建屋）

▼大学に進学して高学歴となっている。卒業後に田舎で働き先があるのか。（広谷）

②しごとの創出について（農林業・商工業・観光業・医療・健康福祉産業など）

【企業誘致・住宅開発等】

▼市長のトップセールスによる企業誘致に期待する。(養父)

▼自衛隊を誘致すれば、国がインフラ整備をしてくれ、人も増え国からのお金も増える。(養父)

▼高速道路はなぜハ鹿から鳥取ではなく、豊岡へ繋げるのか。なぜインター付近等、沿線に産業を展開していないのか。(大谷)

▼大企業の本社が地方に移転する動きがある。特区のつながりを活用して働きかけてもらいたい。(浅野)

▼養父市は高速も開通し利便性はいい。三田のような一大ニュータウン「そうあんの丘」構想はどうか。(宿南)

▼旧建屋小学校に企業が進出すると噂で聞き楽しみにしているが、説明できる範囲で話してもらいたい。(建屋)

【政策など】

▼今ある企業が撤退しないよう努力願う。(養父)

▼田舎は賃金が安いことが問題である(養父)

▼仕事の場を市内に特化するのでなく、但馬全体で見ないといけない。但馬にどのような働き場所があるのか把握しているのか。(口大屋)

▼農林業に対しての補助金がない。(関宮)

▼農業の産地化を目指している。新規就農だけでなく、今就業している人にも補助金を出してほしい。(関宮)

▼子どもが郵便局に勤めているが、パートである。正社員になれないのか。(ハ鹿)

▼地元の仕事は地元でやる。地元でできることは地元におろすことで雇用も増える。(ハ鹿)

▼全国的に山椒のまちとして売り出す。トライやるウィークで中学生に朝倉山椒をぼらす。発想の切り替えで新しい山椒の展開は十分考えられる。(ハ鹿)

▼特区の取組で市外企業に対する支援が目立つ。地元企業も活用してもらいたい。(三谷)

▼企業に対し、正規職員として採用してもらうようお願いしてもらいたい。また、市は、正規雇用の割合の統計を取っているのか。(西谷)

▼市長も安倍総理のように企業にベースアップをお願いしてもらいたい。(西谷)

▼養父市の但馬牛の取り組みが上手に宣伝されていない。新温泉町のように PR すべき。(西谷)

▼生活するには、観光・農業・仕事の３拍子揃わないと成り立たない。仕事のあり方を考えないと。(熊次)

▼働く場は養父市だけでなく、但馬全体で考える必要がある。安心して定住するには、大学の設置や大きな企業を誘致することが必要でないか。(熊次)

▼土地の流動性が高まると企業や人が入りやすい環境づくりができる。仕事も増え、雇用の創出に繋がる(高柳)

▼養父市には働きたいと思う企業がないので子どもが帰ってこない。(高柳)

▼農業の担い手を受け入れているが、農業者になるための技術育成は個人経営では大変である。市からの支援を願いたい。(出合)

▼特区効果で養父市の知名度は上がっているが、ものをつくってもお客の手に届かなければ効果はない。流通の方法を考える必要がある。(浅野)

▼農産物の規格外商品が、市内だけでも流通する仕組みができないか。(浅野)

▼大学と連携して地域調査を実施して、雇用に繋がる研究をしてもらってはどうか。(宿南)

【農業】

▼農業と仕事ができる環境づくりができればよいのでは(養父)

▼農業は採算が合わない。(養父)

▼ほ場整備の農地でも高齢化により維持できず荒れつつある。荒れないように努めているがもうしばらくの間になるかもしれず、時間がない。大鉈を振ってもう一歩踏み込まないと農村地域は守れない。(口大屋)

▼豪雨のたびに土砂が流入する水路の維持管理に費用がかかりすぎ、耕作したくてもできない。ほ場整備の水田を畑として使用し、ニンニクなどを栽培できるように誘導してほしい。(口大屋)

▼畜産(但馬牛)農家が減少している。仕事環境、公害、施設投資が高額になるなどが理由。一人で解決する問題ではない。複数人で運営する団地化を考えてもらえれば問題も解決し、就業者は増えると思う。(三谷)

▼農業の苦しさから新規就農者が離れている。特区指定の新潟は雇用労働相談センターを開設し、事前に相談機会を設けている。養父市も同様の取り組みをしてはどうか。(高柳)

▼有機農業に取り組もうとするが上手くいかない。マニュアルをつくってもらいたい。(宿南)

▼養父市の特産として、山椒もすばらしいが、お茶の葉を栽培し産地化してはどうか。(広谷)

【林業】

▼バイオマス発電を行い、発生する熱を利用して生涯住むことができる高級路線の大規模な老人ホームを展開してはどうか。(養父)

▼林業特区として、林業の集積団地ができないか。大規模なバイオマス発電に取り組めば 100 人以上の雇用が生まれると思う。(三谷)

▼林業と観光を上手に活用するためには道路整備が必要である。(熊次)

▼養父市も森林組合と山林を活用してバイオマス発電に取り組めば雇用も創出できる。(出合)

▼市内の山林を活用するため林道、森林作業道を整備すれば林業の活性化が図れ、バイオマス発電にも十分対応できる。(出合)

▼森林資源を活用するためには林道整備が必要でないか。バイオマス活用の出口整備と併せ、林道整備の入口整備が必要である。(宿南)

▼山林所有者が高齢化により放置された山林が目立ち、山林資源が勿体ない。林業を振興し、新たな雇用創出ができないか。(広谷)

【商工業】

▼大屋の支援工場の償還が終われば、経営者に譲ってもらえるようにできないか。(大屋)

▼養父市は地盤が固く地震が少ない。精密機械工場やソフトウエア会社を誘致して、雇用の創出を目指してはどうか。(八鹿)

▼ハチ高原の広い土地を活用し、太陽光発電の基地を設置するなど、広域化した事業を考えてほしい。(熊次)

▼スキー場に冬期労働者が都会から来るが、シーズン終了後も継続して就労し住める制度を考えてはどうか。(高柳)

▼ＩＴ企業を誘致してはどうか。通信インフラが整備されており、都会との差はない。(浅野・南谷)

▼地元の人間が地元の商店を利用せず、大手の店舗で買物をしている。地元で循環する方法を考えなければ行けない。(広谷)

【医療・健康福祉】

▼高齢化率が上がり、介護施設は一杯であるが、職員は減り、負担が増大している状況を解決する案を市は持っているのか。(伊佐)

▼工場誘致の時代ではない。老人ホームやグループホームの整備を進めれば、高齢者も安心して生活でき、雇用も生まれる。(宿南)

▼介護職場が３K 職場といわれる中、人材確保・人材育成のため、トライやるウィークでの取り組み、福祉教育として小学校教育の一環に取り組んでほしい。(広谷)

▼学校の空き教室を活用して、デイサービス事業に取り組めないか。(広谷)

③若い世代の結婚・出産・子育てについて

【出会いの場・婚活】

▼縁結び制度をつくっているが、市役所に専門の担当員を配置するほうが有効ではないか。（南谷）

▼婚活支援について、社協・シルバー人材センターと上手く連携して取り組めば良いのではないか。（養父）

▼婚活支援に力を入れるべきである。婚活バスツアーを企画してはどうか（小佐・大谷・高柳・宿南）

▼テレビ番組で公募している婚活番組に応募してはどうか。特区で養父市の知名度も上がっている。ＰＲ効果は大きいと思う。（高柳・浅野）

▼適齢期を過ぎた独身者が多く、結婚しても、しなくてもいい風潮がある。最近は職場や地域で結婚の世話をする人がいない。出会いの場づくりを但馬全体で考える必要がある。（口大屋）

▼昔あった青年団組織を復活させ、若者が集い、出会い、情報交換できる場をつくってはどうか。（宿南）

【結婚】

▼結婚して養父市に住んでも結婚祝い金は出ないのか。（養父）

▼結婚して養父市に住んだ場合の手当、また保育料について、どうなっているのか。（養父）

▼働く場がないため、結婚しない若者が増えている。結婚しても経済的理由により１人しか産まず出生数が減少している。（熊次）

【妊娠・出産】

▼妊娠してもマタニティハラスメントがなく、妊娠・出産、育児に父親が参加ができる環境・職場づくりをめざし「子育て特区」の創造に取り組んでほしい。（高柳）

▼都会にいる娘を里帰り出産させたい。安心して出産できる医療体制の充実を願う。（高柳）

【子育て・教育】

▼ふるさとを語ることができる子ども、養父市に残る子どもを育てていくには、地域の人とのふれあいなど、地域内の活動が重要である。地域の者が頑張らなければならない。（養父）

▼子どもたちに市内・近所にどのような会社があるのか教えるべきである。（大屋）

▼学校給食の食材に地産地消を進めてはどうか。地元の食材を使い給食を作っているのか。（小佐）

▼子ども数が減少していくが、少人数であるからこそ特色を活かした教育ができるのではないか。（大谷）

▼0 歳から 15 歳まで、さらには 18 歳まで具体的にどのような教育がなされているのか。（口大屋）

▼子育て、出産に対する補助金があったり、なくなったりするのはなぜか。養父市の子育て施策は他市に比べて充実していると聞くので、継続してもらいたい。（関宮）

▼養父市の子育て支援は他市に比べ手厚い。もっとＰＲすべき。大きなアドバルーンとなる施策の取り組みをしてはどうか。（大屋）

▼若者が住みやすい環境を整えるためにも、幼稚園施設の存続を願う。住みたい地域に幼・保施設があるかないかでイメージは大きく違う。（小佐）

▼子どもたちが安全で遊べ、雨天でも遊べる屋内施設をつくってほしい。八鹿幼稚園跡地を児童施設に利用できないか。（小佐）

▼森の幼稚園（鳥取県）にちなみ、自然を活かした教育、子育ての環境づくりとして「田んぼの幼稚園」の取り組みをお願いしたい。（小佐）

▼養父市は待機児童がない。北近畿自動車道も開通し都市から身近になったことを利用し、母親と子が子育て期間に養父市に住み、田舎の良さをわかってもらうのはどうか。（小佐）

▼母子医療の所得制限が下がったため、受給対象外となり、国保の３割負担をせざる得なくなった。基準の所得範囲内では生活できない。生活保護なら医療扶助がある。市役所に尋ねたが説明態度が悪い。納得できない。(大谷)

▼人口減少によりＰＴＡ、子ども会、地区の役職が早く回ってくる。休日、行事に携わると家族で過ごす時間が無くなる。人口が減少しても組織は減らない。小・中ＰＴＡ組織をなくしてほしい。(大谷)

▼学校の部活の関係があり、休日のバス運行を朝、夕は平日と同じ時間帯にしてほしい。仕事の関係で送迎できにくい状況の中、保護者が送迎しなければならないのは負担である。(大谷)

▼西谷には公営住宅がない。結婚を機に近隣に住んでいる人も多い。地元に住める政策を考えてほしい。(西谷)

▼20 代、30 代の独身人口を把握しているのか。そのうち何%を結婚させたいのか。人口の社会減、自然減がこれだけあるが、市はどれだけ増えたら満足するのか。(出合)

▼若者が何を必要としているか、アンケートを送って意見を求めてはどうか。(出合)

▼女性が輝く社会を実現することは大事。男性の育児休暇を活用するなど子育てに協力することが必要(宿南)

▼「育じい」「育ばあ」が孫たちと集い、ベルマーク集めなど地域活動が出れば良いと考えている。(宿南)

【環境づくり】

▼他市からの移住者を増やすには、結婚・育児・保育手当・住宅にポイントを置いた施策が大切である(養父)

▼子どもの数により段階的に金額を増やす出産祝い金を市長はじめ市職員が負担して支給することは可能か。隠岐の島海士町の話(1 人目 10 万、2 人目 20 万、3 人目 50 万、4 人目 100 万)　(八鹿)

▼都会に出て行った子どもを帰すためには、官・民・学が連携してタイミングをしっかり捕らえ帰らせる取り組みが必要である。(八鹿)

▼若い世代が何に困っているのか。例えば、子育ての場所・子どもを預けられる環境など、若い世代の意見を聞いて欲しい。(口大屋)

▼南谷のような山間に住んでもメリットがない。住宅を新築したら固定資産税を免除するなど、中心部から離れたところは税を優遇してもらえれば、奥に住むメリットにならないか。

▼出産を迎えた 20 代の夫婦が 94 歳の祖母を面倒見ながら暮らしているが、出産時期だけでも祖母を短期入所できないかと市役所に相談したが無理であった。この現状をどう思うか。(南谷)

▼若い親だけの世帯は子どもが病気になると、看る人がおらず仕事を休まなければならない。医療施設において一時保育(病児保育)に取り組んでもらいたい。(広谷)

④安心して住み続けたいと思えるまちづくりについて

【ＰＲ】

▼毎年、県立大の看護学生が養父市に実習に来ているが、養父市の健康課職員の活動はすばらしく、養父市で就職したいという学生が毎年いる。(八鹿)

▼多額の費用を要したが、区で空き家の解体撤去を実施した。植木の手入れや田の草刈りもシルバーの半額でしようと計画している。(三谷)

▼公共施設の維持管理の軽減を図るためにまちの中心部に人口を集中させるコンパクトシティの考えはあるのか。(西谷・浅野)

▼タウンミーティングで市が市民に意見を求めるのもいいが、市議会議員が市民の声を市長、市役所へ伝えるのも手ではないか。(伊佐)

▼昔は先祖がいるところへ帰り生涯を過ごすことが基本であったが現在は違う。世の中のタイムリーな政策を打つことが大事である。サービス・生活環境が良いところへ人は動く時代である。(高柳)

▼養父市には長寿の方が多い。「養父市に来れば元気になるまち、高齢者の健康が保てるまち」として進めてはどうか。（高柳）
▼養父市は地盤が固く地震に強いことをもっとＰＲし、南海トラフが問題になっているが、太平洋側の市町村と連携し、防災連携や人の受入れをしてはどうか。（高柳・浅野）
▼養父市は津波がない、地震も少ない。安全なまちを PR することが大事である。（浅野）
▼老若男女が参加できる哲学カフェをつくってはどうか。いろんな人が意見を交わし自分の視野も広がる。（南谷）
▼小さな企業を育てていくことが、税収を増やす近道である。（南谷）
▼養父市は若者が住むには魅力がないが、高齢者は都会では感じたことがないほど福祉の恩恵を受けていると感じる。若者でなく、全国から老人を受入れるのもアイデアではないか。（南谷）
▼若者世代は互いのネットワークなどで子育て情報などを掴んでいるが、高齢者などの情報弱者への情報提供には配慮は必要である。（建屋）
▼地域を良くしようと考えているが何をしたら良いのかわからずハードルが越えられない。研修したい。（小佐）

【居住・空き家】
▼旅行者が空き家に宿泊できるようにしてはどうか。（関宮）
▼空き家に１年間試験的に住んでもらい、管理委託をしてはどうか。（関宮）
▼空き家を市が壊して、跡地を分譲してはどうか。（関宮）
▼空き家をみんなの集まる場所として活用できないか。（大屋）
▼自分の区の空き家に住む、親と同居して地区に残る人には差別化を図り、支援することを考えてもらえないか（西谷）
▼移住者を空き家に住まわすのもいいが、次男、三男など区民が空き家に住むように活用させてはどうか。（西谷）
▼定年帰農者に空き家を活用させてはどうか。
▼広谷の人口は増加しているが、アパートや分譲地ができたことによる。元々住んでいるところは子どもがいない。高齢化も急激に進んでいる。10 集落のうち２集落はきびしい状況である。（広谷）

【交通】
▼交通手段に困っている高齢者を、善意（ボランティア）で病院や買物に運ぶ仕組みを考えてはどうか。（養父）
▼交通事故の起こりやすい箇所を改修することが安全なまちづくりには必要である。（養父）
▼道路整備が熊次地区の再生には不可欠。吉井バイパスがストップすることは地域全体の発展に影響するので、積極的な取り組みをお願いしたい。（熊次）
▼養父市は交通が不便。交通弱者が病院や買い物に行きやすい施策を考えて欲しい。（小佐・伊佐・出合）

【医療・福祉】
▼地域医療の充実は安心なまちづくりには不可欠である。八鹿病院の存続維持・発展を望む（医師確保・救急医療体制・出産）。（養父・小佐・八鹿・伊佐・浅野・建屋）
▼但馬全体の医療体制は今後どうなるのか。（口大屋）
▼特区と福祉をリンクさせて、うつ病・パニック症などの精神疾患患者の施設を整備してほしい。（八鹿）
▼大谷診療所が閉鎖になる。八鹿病院からの派遣などで、週一日でいいから診療日を設けてもらいたい。（大谷）
▼高齢福祉・健康保持・認知症対策に力を入れてほしい。認知症のサポートを充実させれば、市外からの人口増が見込める。（高柳）

【教育】
▼20 年前大屋に来たときと比べ、小学校が１つになり、高校が閉校になるなど、通学時間も増えて、教育環境が悪くなっている。（大屋）

▼高校の通学にかかる負担に対し補助してほしい。(大屋)
▼給食費を無料にするとか、他市にない制度ができないか。(建屋)
▼建屋小学校を残してほしい。なくなると益々過疎になる。(建屋)

【生活・インフラ整備】

▼地域局職員が年々減っており、災害時に対応できるのか不安である。安心できる対応を考えてもらいたい。(関宮)
▼年をとっても住みやすい地域であれば、Iターン者にとって魅力で有り、出て行く人もいなくなるのではないか。(小佐)
▼本庁舎横のＡＴＭは、高齢者の利用も多いが駐車場と隣接しているので危険である。市有地であるので安全な利用となるよう対策を講じるべき。(養父)
▼ごみ処理施設が近隣にできるなら大塚台に引っ越ししてくるのではなかったとの意見もあり、安心して住み続ける環境づくり、安全対策は大切である。(養父)
▼養父市の生活はコストがかかる。移動の費用や公共料金(上下水道料)が高い。公共料金が安くならないのか。(口大屋)
▼関宮には憩いの場所がない。旧小学校跡地の「羽山の郷公園」の実現をお願いしたい。(関宮)
▼公園がない。子どもたちの遊び場がない。(大屋)
▼小学校のグラウンドにドクターヘリの発着が多く、授業の妨害にならないようにできないか。旧小学校跡地をヘリポートと防災基地にするのが良い。(関宮)
▼吉井バイパスの早期完成を望む。(関宮)
▼人口減少により上下水道施設の維持管理ができなくなる。市民への負担も大きくなることが心配。(三谷)
▼建屋小学校と三谷幼児センターは将来、老人ホームになる噂を聞いたが。(建屋)

⑤誇りを持てる養父市について（ふるさと意識の醸成）

▼天文館「バルーンようか」は但馬一で、県内でも誇れる施設であり存続を願う。(養父・高柳)
▼子どもが作成する人権ポスターには「なかよし」「ともだち」などが記されているが大人ができていない。思いやる気持ちを大人がもち、地域のコミュニティを醸成すべき。(八鹿)
▼先人の努力、成功スタイルを後世に伝え、若者を育てることが大切である。(八鹿)
▼大屋の好きなところは自然が一番と感じている。大屋の方は他人のことを否定しないし、好きにやっている人もいる。そこが良いところと思う。外から入ってくる人が住みやすくするのがいい。(西谷)
▼養父市にはたくさん魅力あるが、認識していないため、魅力を発見した人が頑張らないといけないのが現状。魅力を見つけた人にはもっと援助しないと養父市の魅力が光らない。(西谷)
▼氷ノ山には氷河期からミツガシワなど貴重な植物があり、先日鹿が入らないようにネットを設置したが、モリアオガエルの産卵場所である木を自然保護の団体が切ってしまった。市からも注意してほしい。(熊次)
▼養父市も他市に負けない誇れる文化的なものを施策に取り入れ進めてもらいたい。(伊佐)
▼ふるさと納税は地方創生には大事である。養父市の特産品をもっとＰＲすればいいのでは。(伊佐･高柳)
▼地元の魅力を再発見し、自然を大事にした施策を考えてほしい。親子で参加できる博物館や自然中心の書籍を集めた図書館など。(高柳)
▼別宮など市内で遺跡調査をしている。展示の日をつくるなど公開してほしい。(出合)
▼池田草庵先生の教えなど立派な教育が育まれている。教育のまちとしてアピールすることが大事。(出合)
▼市内には偉人が多くいる。ドラマ化に向けてＰＲし、交流人口の増加を図るのはどうか。(出合・宿南)
▼八鹿高校・但馬農高などの情報を地域も発信し、教育環境や住みやすいまちを PR すべき。(宿南)

▼誇りを持てる地域ブランド「但馬牛」をもっと良い方法で PR すべき。(広谷)
▼但馬牛の育成を応援しないと他地域にシェアを取られてしまう。(建屋)

⑥交流人口を増やす方策について

▼養父神社の紅葉シーズンには大型バスが 400～500 台入ってくる。市に物心両面の支援を願う。(養父)
▼女性は「観て食べて体験する観光プラン」に満足する。但馬牛、鯉料理、グンゼ跡地、牛市を活用し、女性をターゲットにした取り組みをしてはどうか。(養父)
▼都市部の方が大杉の「いろり」をよく利用しているが宿泊代が高いと聞く。自炊施設なので宿泊代を無料にできないか。(大屋)
▼市の玄関口である八鹿駅前の整備を願う。駅前で時間を潰す(食事・休憩)ところがなく寂しすぎる。(大屋)
▼国宝となった名草神社のＰＲに力を入れるべき。宝を活かせば交流人口を増やせるのではないか。(小佐)
▼鹿が多い。駆除でなく、鵜飼いならぬ「鹿飼い」「鹿牧場」など、鹿を活かしたまちづくりはどうか。(八鹿)
▼養父市は山が多いことを活かし、家族で楽しめるトレッキングコースを整備してはどうか。(八鹿)
▼大屋川や八木川に鮎を放流し、養父市では鮎がとれるという自然を活かしてはどうか。(八鹿)
▼全但バスと協力して、市内を小型バス、タクシーで小グループの観光コースを検討し、県内の大学生(特に女子大学生)をターゲットにパンフレットを配布してはどうか。(西谷)
▼市内の観光施設(天滝・大桜など)は金を落とすシステムができていないのでつくるべきである。(西谷)
▼県下一高い氷ノ山に２本のリフトを設置し、８合目まで行けるようにすれば観光客を呼び込める。(熊次)
▼氷ノ山を隧道で鳥取まで繋げてはどうか。鳥取を経由して人口の流動が期待でき、延長として中国・韓国からの観光客を連れてくる夢を持つのもいい。(熊次)
▼ハチ高原には絶滅危惧種の蝶「ｳｽｲﾛﾋｮｳﾓﾝﾓﾄﾞｷ」が日本一生息している。守る会で餌となる「おみなえし」を栽培し繁殖に取り組んでいる。国蝶の「ｵｵﾑﾗｻｷ」もいる。うまくＰＲすれば観光につながる。(熊次)
▼林業に注目することが大切である。林業と観光への取り組みとして「林業大学校」を考えてはどうか。(熊次)
▼高丸頂上が雨や登山者の影響で浸食されハゲ山になっている。石を置いて浸食を食い止める対応をお願いしたい。(熊次)
▼氷ノ山にも鹿が増え、ヤマビルが問題となっている。登山道の木を切り、日が当たるようにしてヒル対策しなければ、登山客に影響する。(熊次)
▼氷ノ山の鳥取側は登山ポイントがわかる道標が整備されているが、養父市側は道標が朽ちておりポイントが掴めない。遭難や怪我などで防災ヘリが出動時に確認ができないので、整備をお願いしたい。(熊次)
▼地域おこし協力隊を活用して情報発信をするのが良い。(伊佐)
▼豊岡・朝来市は外国人を雇い、自市の魅力を海外へ発信している。養父市も考えてみてはどうか。(伊佐)
▼竹田城のように、いつ、何がきっかけで観光客が増えるかわからない時代。浅間寺には仏像・彫刻など埋もれた貴重な文化財がある。出石に続く幹線道路沿いであり、観光資源に活用できないか。(伊佐)
▼但馬全体で一丸となって誇れる地域を目指す。近大豊岡短期大学を４年制に、但馬農高に林業の専門分野を設置するなど、この地域のブランドを全体で創りあげていく施策が必要である。(伊佐)
▼杉ケ沢高原（大根畑）を活用してはどうか。高原は多くの人を受け入れることは可能である。但し、大型バスが入れないので、入れるようにしてもらいたい。(出合)
▼体験農園しており、幼児センターや養護施設に収穫体験を利用してもらっているが車の都合ができず、行きたくても行けない園があったので、市で支援してほしい。(出合)
▼全国住みよさランキングで、養父市の安心度は全国で 13 位である。積極的にＰＲすべき。(浅野)
▼市ホームページを外国語表記にして、海外に向けＰＲ（アジア圏エリア　台湾・中国・韓国など）し、交流人口増の施策を打ち出すのはどうか。(浅野)

▼養父市はイベントのＰＲが下手。都会の人のニーズを捉えたイベントを開催すべき。（浅野）
▼知人が訪ねてきても観光案内するところがない。日本一になるようなものがあればいいが。（宿南）
▼但馬には夢が語れるものが揃っている。但馬一丸となり近大豊岡短期大学を４年制大学にして専門性の高いものに、但馬農高にも林業の専門分野をつくり、農業、林業、漁業など誇れる場所にしてもらいたい。（宿南）
▼遊休農地を活用し、観光農園や貸し農園として活用すれば都会との交流につながる。（南谷）
▼糸原も限界集落に近づいている。人がおらず、村の祭で御神輿も出せなくなっている。都会からボランティアを募り、神輿を出すことができないか。交流を図れば、結婚にも繋がるかもしれない。（南谷）
▼養父市の来訪者に対し、高速道路を無料化にしてはどうか。（広谷）
▼地元が人を受け入れる体制をつくらなければ、交流人口の増加には繋がらない。（建屋）

※その他意見

【タウンミーティング等全般意見】

▼秋田の大潟村、市内の広谷で人口が維持されていることをどのように分析しているのか。（養父）
▼合併して 10 年以上経過しているが何年もこのようなことを行っている。行政側が具体的な戦略を示すべきではないか。（口大屋）
▼タウンミーティング以外でも、高校生も含め意見を聞く機会をもってはどうか。（八鹿）
▼パブコメをして計画ができたとするのでなく、作成過程から情報公開を含め市民にもわかりやすい計画づくりに努めてもらいたい。（八鹿）
▼人口減少の認識が甘い。10 年で５千人減少している。50 年間で養父市は０人になる。市としてどれだけ増えれば満足するのか。（大谷）
▼地方創生は給料をもらっている市職員が考えるものと思っている。市民はどうしたらいいかわからない。（出合）
▼今回の総合戦略策定にあたり、パブリックコメントを募集しないとなっているが、募集してほしい。（広谷）

【市職員に対する意見】

▼養父地域局の２階職員が１階に移動したが、地域局長がカウンターから見えない位置となった。カウンターを外し親しみの持てるものに変えてほしい。（養父）
▼山椒・イチジクの栽培を始めたが、地域局からの情報が無い。アンテナが張られていない。まちづくり条例に沿って市職員の責務を見直して欲しい。（大屋）
▼小学校周辺が草ぼうぼうでも草刈りしない。校長によって対応が違う。（大屋）
▼職員はあいさつしない。また、大屋・養父地域局周辺の管理ができていない。草が生えていても掃除していない。朝早く出勤し掃除するとか対応すべき。（大屋）
▼市職員でも親を残し環境の良いところに家を建て住んでいる。良くないと思うが。（建屋）

【行政に対する意見】

▼八鹿地域は力を持っているのに行政は八鹿地域に何もしない。養父・大屋・関宮地域ばかり力を入れている。八鹿地域もサポートすべきである。（八鹿）
▼市の総合計画の進捗がわかりづらい。市民と共に考え、公表していくことを提案する。（八鹿）
▼平成 21 年に関宮の「小さな道の駅」の水道が止められたのはなぜか。（大谷）
▼有害鳥獣対策で、駆除した鹿をどのように処理しているのか。（大谷）
▼出合自治協議会の２階に行政書類がたくさん置いてある。高齢者や健康増進の部屋として利用したいが、他に移してもらえないか。（出合）
▼行政に関心が薄いのはなぜか、若者も関心がない。アンケートを取ってはどうか。（広谷）
▼Ｕ・Ｉターン、結婚、出産、子育ての重要課題を重点的に行うための予算配分はどうなっているのか。（浅野）

【インフラ要望】

▼JR 播但線の複線電化や高速バスの停留所に駐車場がほしい。(広谷)

▼唐川から朝来市に通じる過疎基幹農道は完成するのか。(建屋)

▼唐川の堆肥集配センターを、唐川区や長野区に任せてもらえないか。(建屋)

【団体に対する意見】

▼市老人クラブからの脱退が増えている。各老人クラブにあり方などを市から指導してもらいたい。(養父・関宮・三谷)

【集落支援に対する意見】

▼ハチ高原と下の民宿との格差が激しく、将来的に生活が危ぶまれる。是正を考えていただきたい。(熊次)

▼100 年も前から分水界により隣接区に年貢を払い続けているが解消してほしい。(出合)

※その他意見【特区の取り組み】

▼特区を一番後押ししてくれた事業者である新鮮組の動向はどうなっているのか。(大谷)

▼大屋の「なかま荘」を、農業特区として企業だけでなく、新規就農者への支援に活用してはどうか。(西谷)

▼特区説明会で熊次地区には企業の申込がないと聞いたがその後どうなったのか、市から連絡が無い。企業が来ないなら地元で立ち上げないと行けない。自治協が受けられるのか、指導してほしい。(熊次)

▼特区がスタートし、法人設立だけでなく、生産体制入ったと記事などでみるが、現状を聞かせてほしい。(南谷)

▼特区が動き出していると感じるが、商品流通のノウハウを持っているのか。企業に任せるのでなく地元商工会などを活用し、情報共有する機能をもつべきである。(浅野)